

アトピー性皮膚炎

シクロスポリン使用ガイド(大人用)

監修 岡田アレルギー科・皮膚科医院 院長 岡田 茂 先生



① アトピー性皮膚炎とは？

Contents

①アトピー性皮膚炎とは？	3
②治療目標	4
③治療の三本柱	5
④原因・悪化因子の検索	6
⑤原因・悪化因子の対策	8
⑥スキンケア	9
⑦薬物療法（塗り薬）	10
⑧薬物療法（飲み薬）	12
⑨血液検査による重症度の判定	14
⑩シクロスポリンとは？	16
⑪服用できる患者さん	17
⑫シクロスポリンの服用	18
⑬服用する際の注意点	20
⑭シクロスポリンの副作用	22

アトピー性皮膚炎はかゆみのある皮疹が特徴の皮膚疾患で、良くなったり（寛解）、悪くなったり（増悪）を繰り返します。アトピー性皮膚炎の患者さんは子供に多く、その多くが成長するにつれて症状が軽くなると言われています。一方で、大人になってもなかなか良くならなかったり、一度寛解しても大人になってから症状が出てしまう場合もあります。長い目で見て治療をしていく必要がありますが、今では1人1人に合った治療法で症状をコントロールすることができます。



② 治療目標

アトピー性皮膚炎の発症には体質や環境状態などのさまざまな要因が重なっているため、病気そのものを完治させる薬物療法はありません。しかし、適切な治療を行うことで、症状を良い状態にコントロールすることはできますので、下記を目標に治療を行います。

治療の目標

- 1 症状はないか、あっても非常に軽く、日常生活に支障がない状態。薬もあまり必要としない。
- 2 軽い症状は持続していても、急に悪化することはあまりなく、悪化しても長引くことはない。

日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドラインより改変

③ 治療の三本柱

①原因・悪化因子の検索と対策

アトピー性皮膚炎の原因や悪化因子は患者さんによってさまざまです。問診や検査などから慎重に判断し、その原因をできるだけ取り除きます。

▶ 詳しくは ④ ⑤



②スキンケア

皮膚のバリア機能が低下して乾燥しやすいため、皮膚を清潔に保ち、保湿を行います。

▶ 詳しくは ⑥



③薬物療法

炎症やかゆみを抑えるには薬による治療が中心になります。症状の程度に応じて、塗り薬(外用薬)あるいは飲み薬(内服薬)を使用します。

▶ 詳しくは ⑦ ⑧



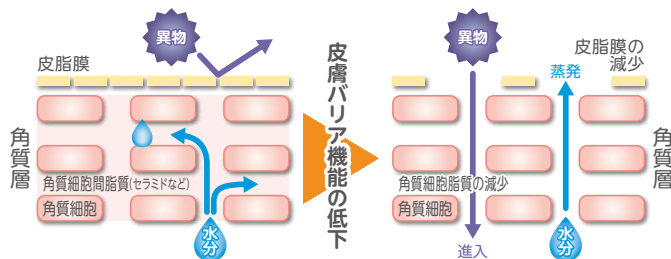
4 原因・悪化因子の検索

遺伝、環境、ストレスなどのさまざまな要因が考えられています。

① 遺伝的要因

アトピー性皮膚炎の患者さんの多くは、遺伝的に外からの異物にアレルギー反応を起こしやすい体質(アトピー素因)であったり、下記のように皮膚のバリア機能が低下しています。

皮膚のバリア機能



皮膚の外側にある角質層には、バリア機能と呼ばれる皮膚を保護したり水分を保つ働きがあります。アトピー性皮膚炎では角質層中の天然保湿因子やセラミドが減少して皮膚のバリア機能が弱くなっており、皮膚が乾燥しやすく、異物や汗などの刺激を受けやすくなっています。

② 環境的要因

環境中には、ダニ、カビ、ハウスダスト、花粉、ペットの毛などアレルギー反応を引き起こす物質があります。

アレルギー物質以外にも、汗や乾燥、引っ掻く、石鹸、紫外線などの物理的な刺激によって皮膚が炎症を起こす場合もあります。



③ 精神的要因

ストレスや過労、睡眠不足があると、アトピー性皮膚炎の症状が出やすくなります。

5 原因・悪化因子の対策

規則正しい生活(精神的要因を取り除く)

- 十分な睡眠をとりましょう。
- バランスの良い食事を心がけましょう。
- 気持ちにゆとりを持ち、ストレスを溜めないようにしましょう。

室内を清潔に保つ(環境的要因を取り除く)

- こまめに掃除をしましょう。
- 布団はこまめに日干しをしましょう。
- 絨毯やぬいぐるみ、室内でのイヌやネコの飼育は避けた方がよいでしょう。



身だしなみの注意(皮膚への刺激を和らげる)

- 衣服は刺激が少なく手触りの柔らかいものを選びましょう。
- 無意識に掻いてしまう場合もあるので、爪は短く切っておきましょう。
- 肌に合ったシャンプーや化粧品を使いましょう。

6 スキンケア

皮膚の清潔

- 汗をかいた後は、できるだけ早く洗い流しましょう。
- 体が温まるとかゆみが増すことがあるので、熱いお湯や長時間の入浴は避けましょう。
- 柔らかいタオルに石鹸をよく泡立てて優しく洗いましょう。
- 石鹸やシャンプーは十分に洗い流しましょう。



保湿

- 入浴やシャワー後は、汗が引いたら早めに保湿剤を塗りましょう。
- 起床時や肌の乾燥が気になったときは、こまめに保湿剤を塗るとよいでしょう。



※治療によって皮膚の炎症が治まったとしても、皮膚バリア機能は弱まっている状態ですので、保湿を続けることが重要です。

7 薬物療法(塗り薬)

ステロイド外用薬

炎症を抑えるためによく使われるお薬です。5段階の強さがあり、患者さんの症状や、塗る部位によって使い分けます。

塗り薬のステロイドは皮膚から吸収される量も少ないため、全身的な副作用は飲み薬よりも少ないです。副作用を恐れて十分な量を塗らないと、症状が改善せずにステロイド外用薬の治療が長引いてしまうことがあります。

タクロリムス外用薬

タクロリムス外用薬はステロイドとは異なる働き方で炎症や免疫反応を抑えます。中程度のステロイド外用薬と同じくらいの効果です。顔や首に使うことが多いです。

保湿剤

炎症が治まっても皮膚のバリア機能は低下しているため、保湿剤を塗って乾燥を防いでケアをします。

塗り薬の適正な量

塗る量の目安としてFinger Tip Unit (FTU)という単位があり、チューブ入りの軟膏やクリームの場合、人差し指の第1関節から指の先まで出した量が1FTUとなります。ローションの場合は一円玉の大きさが、1FTUに当たります。

1FTUで、成人の手のひら2枚分の面積にお薬を塗ることができます。

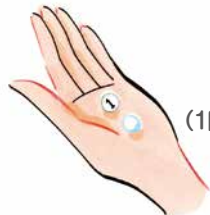
お薬は強くすり込むのではなく、やさしく伸ばすように広がっていきましょう。

1FTU

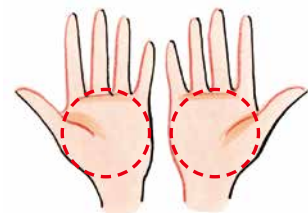
チューブ入り
軟膏・クリーム場合



ローションの場合



(1円玉大)



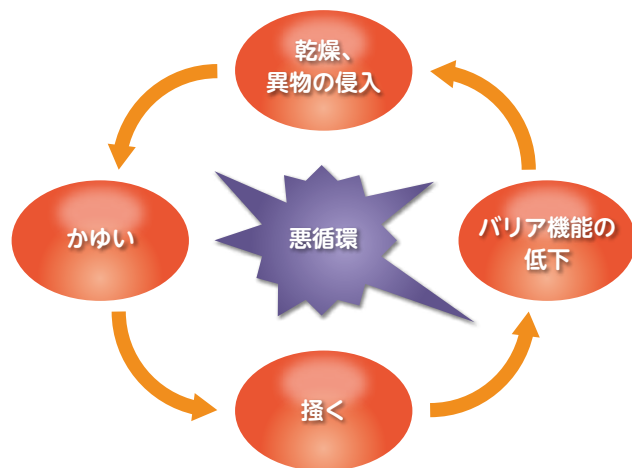
成人の手のひら2枚分の
面積に塗れます。

8 薬物療法(飲み薬)

抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬

かゆみの症状は抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬の飲み薬によって抑えます。掻くことで皮膚が傷つくと、バリア機能は低下し、症状が悪化してしまうため、かゆみの悪循環を断ち切るためにも重要な治療です。

かゆみの悪循環



ステロイド内服薬

重症～最重症のアトピー性皮膚炎の患者さんに対してステロイド内服薬を使用することがあります。しかし、全身的な副作用も懸念されるため、服用は短期間にとどめます。

シクロスポリン(免疫抑制剤内服薬)

従来の治療法で効果が得られなかった、重症～最重症の大人の方の患者さんに対して用いることができる治療法です。

▶ 詳しくは 10

その他、薬物療法で十分な効果が得られない場合は、紫外線を照射する光線療法を行う場合があります。

⑨ 血液検査による重症度の判定

血液検査(TARC値)による重症度(治療効果)の判定

アトピー性皮膚炎では、TARCという成分が過剰に産生され、アトピーの症状を起こす原因の1つになっていることがわかってきました。また、症状が重症なほど血液中のTARC値が高く、軽症なほどTARC値が低いこともわかってきました。

そのため、アトピー性皮膚炎の重症度の判定は、痒みの程度や湿疹の範囲を確認することが基本ですが、加えて血液検査でTARC値を調べることも行われるようになってきています。



TARC基準値(健康な方の値)

成人	450pg/mL 未満
2歳以上	743pg/mL 未満
1歳以上 2歳未満	998pg/mL 未満
6ヵ月以上 12ヵ月未満	1367pg/mL 未満

アトピー性皮膚炎の重症度判定の目安

成人	軽症 < 700pg/mL ≤ 中等症以上
小児(2歳以上)	軽症 < 760pg/mL ≤ 中等症以上

藤澤 隆夫, 他: 日本小児アレルギー学会誌. 19(5):744, 2005.

玉置 邦彦, 他: 日本皮膚科学会雑誌. 116(1):27, 2006.

10 シクロスポリンとは？

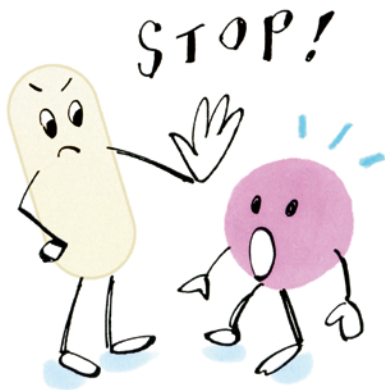
働き

シクロスポリンは免疫抑制剤と呼ばれ、臓器移植の拒絶反応を抑制するためのお薬として開発されました。シクロスポリンは、免疫にかかわるTリンパ球という細胞の働きを抑え、異常な免疫反応を抑える働きがあります。

アトピー性皮膚炎も、Tリンパ球の異常な働きが関与していることがわかっているため、アトピー性皮膚炎の治療にも使われるようになりました。

効果

- 炎症(腫れ、痛み)・湿疹を抑える
- 早くからかゆみを抑える



シクロスポリン Tリンパ球

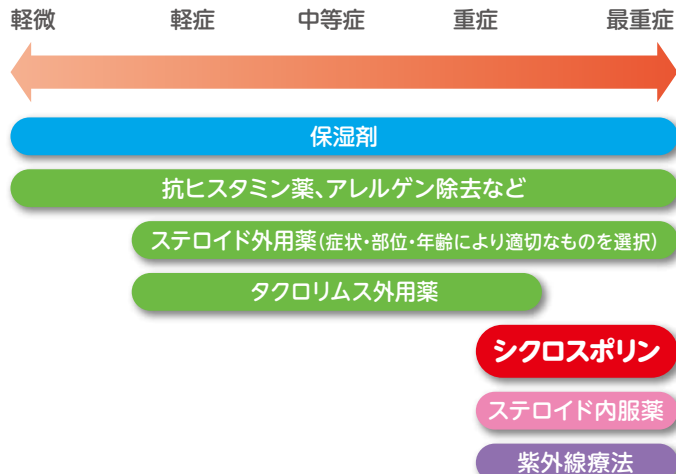
11 服用できる患者さん

シクロスポリンによるアトピー性皮膚炎の治療は、重症以上の患者さんが対象で、具体的には下記のような条件を満たしている必要があります。

使用条件

- 16歳以上
- これまでの治療を継続しても十分な効果が得られない
- 強い炎症(腫れ、痛み)を伴う皮疹が広範囲にある

アトピー性皮膚炎治療でのシクロスポリンの位置付け



12 シクロスポリンの服用

治療を始める前に

次の場合は必ず主治医や薬剤師に相談してください。

- ☐ お薬を飲んで発疹やアレルギー反応が出たことがある
- ☐ 他に免疫を抑えるお薬を服用している
- ☐ 他にお薬やサプリメントを服用している
(薬局、ドラッグストアで購入したものも含む)
- ☐ 最近予防接種を受けた、または受ける予定がある
- ☐ 妊娠または授乳中である

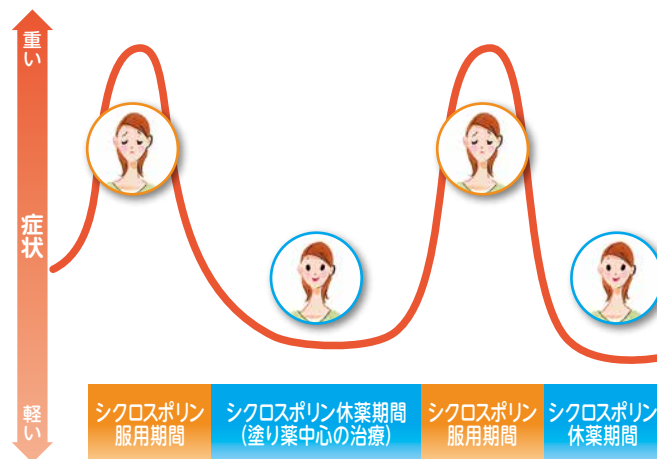
服用方法

服用量・服用回数は患者さんの症状の程度や体重などによって異なります。さまざまな服用方法がありますので、主治医や薬剤師の指示に従ってください。

服用期間

症状が悪化しているときに一時的に服用します。1回の治療期間は長くても3ヵ月です。主治医や薬剤師の指示に従い、自分の判断で中止しないでください。

服用期間の例



13 服用する際の注意点

服用し忘れた場合

気が付いた時にできるだけ早く1回分を服用してください。
ただし、次の服用までの時間が近い場合は、服用せずに次の時間に1回分を服用してください。

絶対に2回分をまとめて服用してはいけません。

誤って多く服用してしまった場合は、すぐに主治医や薬剤師に相談してください。

お薬の保管

お薬は服用直前まで開封せずに包装(PTPシート)のまま保管してください。お薬をPTPシートから出したまま放置すると、カプセルが柔らかくなったり、カプセル内の成分が蒸発することがあります。



お薬の飲み合わせ

お薬の組み合わせによってシクロスポリンの効果が強く出たり、弱まってしまう場合があります。副作用が起きやすくなることもあるので、他にお薬を服用している場合は必ず主治医や薬剤師に相談してください。

<好ましくない飲み合わせの例>

- グレープフルーツジュースを飲むとシクロスポリンの効果が強く出てしまいますので、避けてください。

※一部のかんきつ類(グレープフルーツ、ブンタン、スウィーティーなど)にもシクロスポリンの効果を強める成分が含まれているので、なるべく食べることを避けてください。

- セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)を含む健康食品と一緒に服用すると、シクロスポリンの効果が弱くなりますので、避けてください。

- ぜんそくのお薬であるテオフィリンとシクロスポリンを併用すると、テオフィリンの副作用が起きやすくなるので、注意してください。

14 シクロスポリンの副作用

シクロスポリンの治療中に下記のような症状があらわれることがあります。あてはまる症状がある場合は、すぐに主治医や薬剤師に相談してください。

自覚症状のある副作用

<手足>

手が黄色くなる、しびれ、こわばり、ふるえ

<目>

白目が黄色くなる、視力低下

<消化器>

食欲不振、吐き気、上腹部の痛み

<皮膚>

おでき、多毛、にきび、発疹、ほくろのかゆみ・痛み

<尿>

尿量が減る、血尿、尿の色が濃くなる

<全身、その他>

発熱、脱力感、かぜ様症状、疲れやすい、むくみ、めまい、出血傾向、筋肉の痛み、リンパ節の腫れ、呼吸困難、頭痛

また、検査によって発見される副作用もありますので、シクロスポリンの服用中は、定期的な血液検査と血圧測定を行います。主治医が指示した受診日を守り、定期的に通院しましょう。

検査でわかる副作用

<血液検査>

シクロスポリンが腎臓の機能に影響を与えていないか調べます。必要に応じて肝臓の機能や脂質異常に関する血液検査も行います。また、副作用を防ぐためにシクロスポリンの血中濃度を測定し、服用する量を調節します。

<血圧測定>

シクロスポリンを服用すると血圧が上昇することがあるので、定期的に血圧を測定します。



Memo

Memo

監修の言葉

アトピー性皮膚炎は、増悪と軽快、寛解と再燃を繰り返す慢性疾患であり、その時々に応じて必要な治療により、症状のコントロールを心がけるべきとされています。

クリニックや病院を訪れる患者さんは様々な背景を持たれており、生活や精神面を含めてその状況に応じた最善の治療を選択できるように、患者さんと相談しながら日常診療が行われています。

多くの患者さんは、ステロイド外用剤を主体とした標準治療で十分にコントロールできますが、通常の外用治療で十分にコントロールできない方や、ステロイドの長期連用によって副作用をきたす方、また患部が広範囲で急激な炎症や激しいかゆみがあるような方には、短期的な治療としてシクロスポリン内服療法が有効であることも少なくありません。

アトピー性皮膚炎でのシクロスポリン内服療法は、1995年にイギリスでの認可を皮切りに60カ国以上で承認されており、確立された治療法と言えます。そして、海外では安価なジェネリックもたくさん発売・使用されており、近年国内でも、ジェネリックが発売され、少ない費用で有効な治療ができるようになりました。

外用薬や生活・食事などの注意を行いながら、症状を抑えたい場面での強力なリリーフピッチャーのような役割を担うシクロスポリンは、患者さん自身が十分な注意を払いながら使用することで安全で有効な治療ができます。

本冊子が少しでも皆さんのお役に立ち、よりよい日常生活を送っていただけることを期待しています。

岡田アレルギー科・皮膚科医院 院長 岡田 茂

緊急の連絡先

病院・医院名

電話番号

担当医師名

科

お問い合わせ窓口

memo

発行：2013年

監修：岡田アレルギー科・皮膚科医院 院長
岡田 茂

提供：東和薬品株式会社

本冊子の内容を許可なしに複製、複写（コピーなど）、
転載することは法律で認められた場合を除き禁じられて
います。